

観光創造専攻

平成20年度
後期

日本語論述

13:30～15:30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚である。
- 3 解答用紙(25字×40行=1000字)は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題の 1～3 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語（横書き）で解答しなさい。

【問題 1】

交流文化、異文化間コミュニケーションは、国際観光において、インバウンドにもアウトバウンドにも大きな意味を持っている。国際観光の促進という視点で、訪れる側と訪れられる側の関係性のあり方や文化コミュニケーションの課題について論じなさい。

【問題 2】

観光政策や観光戦略において、いわゆる「マスツーリズム」の効果が様々に議論されている。マスツーリズムのプラス要因とマイナス要因を、それぞれ 3 つあげ、そのうえで、将来への展望という視点から、「観光創造」のための市場形成の方向性について論じなさい。

【問題 3】

近年、世界的な傾向として、農業、水産業、あるいは林業と観光の関わりで、いろいろな新しい観光形態が登場している。このような観光形態の事例をあげ、その内容を説明しつつ、これらが地域振興、地域再生に与える効果について論じなさい。